



あさがお 栽培のポイント ④



梅雨時期～夏の管理について

置き場所

- 朝日のあたる場所で、1日に6～7時間、日があたり風通しの良い場所に置き、夜間の照明があたらない場所に置きましょう。
- コンクリートの地面は避け、土の地面に置くようにしましょう。
- 草むらからはできるだけ離すようにしてください。

チェック!

- あさがおの様子を見て、成長しているけれど弱々しい(茎が細い、葉が小さい等)と感じましたら、日当たり条件が良くないのかもしれませんが、日当たりのよい場所に移してあげるようにしましょう。
※但し、夏場の太陽(直射日光)には気を付けてください。
- 葉やつるはよく成長しているのに、つぼみが見つからない場合…
窒素肥料を与えすぎると、葉やつるだけが成長して、つぼみや花がつきにくいことがあります。つるの先端を切ってみて、つぼみを付ける成長への刺激を与えましょう。
又、夜間の街灯や部屋の明かりが影響している場合は短日にならず、つぼみがつきにくくなります。夜間照明があたらない場所へ移動しましょう。

水やり

- 土の乾き具合を見て与えます。
※雨にたっぷり当たっているような日は与える必要がありません。
- 花が咲く頃、気温も上がり水やりは1日に数回必要になります。
- 午前中に水をやり、午後にも土の乾き具合を見て水を与えましょう。

チェック!

- 水は葉や茎にかけるのではなく、土全体にたっぷり与えましょう。
- 乾燥する時期はシャワーで葉にざっと水をかけてあげるとハダニ防止になります。
- あさがお植木鉢用の受皿を利用すれば、休日の水やり対策になります。誠文社のペットジョウロをペットボトルに取り付け、受皿にジョウロを下にして立てます。水は植物の必要に応じて下から水を吸い上げます。
(※受皿を使った、ペットボトルでの自動給水は、水やりの補助的な役目をするものであり、水やりが一切不要になるわけではありません。)
- 気温が高くなってきた頃、あさがおが葉をたくさんつけどんどん繁ってきましたら、受皿には常に水がはっているようにするのも、良い方法の一つです。

もしも育てているあさがおが元気が無いようでしたら、日当たりの条件をもう一度確認し、土の乾き具合を見てたっぷり水を与えるようにしてください。
市販の液肥を与えるのも良い方法です。※液肥や殺菌剤の取扱いは、先生や大人が扱うようにしてください。